

## 一人ひとりが地域で輝いていくために パーソナルサービスセンター・トムトム（茅ヶ崎市）

「パーソナルサービス」は、それぞれが暮らしや要望に合わせて、利用者が福祉サービスの内容を決定していくこと、アイヌ語に由来する「トムトム」には、地域で輝いていくという意味が込められています。今回は、ハンディのある方とその家族を対象にした会員制の「パーソナルサービスセンター・トムトム」を訪ね、代表の上杉桂子さん、副代表の戸尻聡子さん、会計を担当する藤田里魚さんにお話を伺いました。

### 地域であたり前に暮らすこと

地域の中で自立して生活していくために、余暇支援は大きな意味をもつ。知的障害児や肢体不自由児の親の会のメンバーなどが協力しあって、開催した「障害児の支援セミナー」での一つの結論がきっかけとなり利用者市民が自主的に運営する「トムトム」は誕生しました。

会員は、運営に関わることできる「正会員」、パーソナルサービスを利用する「利用会員」、学童クラブを利用する「学童クラブ会員」、「賛助会員」で構成されています。利用者は約30人、一日5件から6件の利用があり、一カ月約二百時間を六人のスタッフ（職員一人、非常勤職員六人）で対応しています。

サービス内容は、日常生活のサポート、通院・通学など外出時の送迎やガイドヘルプ、学童クラブ、宿泊と個人の希望で様々です。

サービスを利用してはいる子どもたちの母親で、運営にも携わる「

人はそれぞれの思いを語ります。  
「二十四時間、三百六十五日、好きに暮らしたい」と、スガ

なへ、施設感もないというのが大きな特徴です」と上杉さん。

「今までの活動を通して、健常児が成長するのと同様に、社会性を身につけるうえで、余暇の必要性を痛感しました」と戸尻さん。

「家に閉じこもりがちな子がここを利用するようになって積極的になりました。家族の負担も軽減されています」と藤田さん。

「家族が抱え込むのではなく、社会的責任において、第三者が支援する体制が必要だと思います。親が世話をしていくのが当然だという環境は変えていくべきです。」

『地域の中で自立した生活を』とよく言いますが、療育だけで十分とは言えないと思うのでまーと二人は異口同音に答えます。

夏休みには一週間をグループ単位で生活する「サマースクール」も開催しています。また、十月からは、新たな場所に拠点を移し、利用者が納得したサービスが受けられるよう「体験利用」にも開始しました。利用料の設定やスタッフ不足など課題も残りますが、今後の活動が期待されています。

会・限0467-58-8335



アパートの1階のアットホームな雰囲気  
http://www.05.u-paga.co.net/~to\_tom\_tom/